

2023年度 国語科

教科	国語科	科目	言語文化	単位数	2	年次／コース	高校1年生／SS
使用教科書	東京書籍『精選言語文化』						
副教材など	尚文出版『言語文化の基礎学習』 第一学習社『ダブルマスター古典文法＋漢文句形』 第一学習社『ダブルマスター古典文法＋漢文句形 準拠ノート』 桐原書店『読んで見て覚える 重要古文単語 315』 京都書房『新訂 国語図説 五訂版 (デジタル)』						

1. 学習の到達目標

<p>●科目について</p> <p>SSコースの授業では、高校1年次に古文単語・古典文法・さまざまな種類の文章読解など古典に関する基礎を築いて、模試や入試の基礎学力を養うことを重視します。基本的に週1回古文単語テストを実施し、作品読解と並行して1年間で古文単語集の第1章以上を修了し、古典文法は用言と助動詞までを修了します。また、進度を確保するだけでなく定着していることにも気を配ります。文章読解に関しては、なるべく多様な種類の作品に触れつつ、意味解釈だけに終わらないように配慮し、パフォーマンス課題やリフレクションを通して3観点からの評価ができるように配慮します。なお、現代の文学的文章の分野は、二年生時の「国語演習①」で扱うこととします。</p> <p>●コンピテンシーについて</p> <p>生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>古典作品を通して論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

2. 学習方法について

<p>●授業中において</p> <p>古典の基礎を定着させるために、古文単語テストやリフレクションを通して自分の理解が不十分な箇所を見つけてください。また、理解が不十分な箇所をそのままにするのではなく、家庭学習として復習に取り組むことで理解を深めてください。知識事項が多い授業なので、繰り返し演習することでそれらをより確実に定着させていくことが重要です。</p> <p>●家庭学習において</p> <p>古文単語テストに向けて予習をしてください。また、授業で扱う文章の予習として単語の意味調べや文法事項の確認を課すことがあります。</p>

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	①：知識・技能	②：思考・判断・表現	③：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の、文化の継承、発展、創造を支える働きを理解している。 古典文法の用言・助動詞を修了し、古文単語は必要語彙数の約半分を修了する。また、漢文句法は再読文字、受身、使役等を修了する。 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて古典文法等の知識に基づいて的確に捉えることができる。 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。 	<p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p>
評	【成果物】 〈 〉は略	【成果物】	【成果物】

評価方法	パフォーマンス課題〈パ〉、授業・家庭学習の成果〈成〉 リフレクション〈リ〉、小テスト〈小〉 【ペーパーテスト】 定期考査〈考〉	〈パ〉、〈成〉、〈リ〉 【ペーパーテスト】 〈考〉	〈パ〉、〈成〉、〈リ〉
------	--	-------------------------------------	-------------

上に示す観点・評価方法に基づいて、各観点で評価し、学期末に当該学期の観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。また、学年末に年度を通しての観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評価方法
			①	②	③		
1 学 期	【古】 「児のそら寝」 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 説話の読解 ◆ 歴史的仮名遣い 	○	○	○	<p>A：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の古文単語の意味を把握している。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。 ・古文と現代文の違いとつながりについて理解している。 <p>B：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて古典文法等の知識に基づいて的確に捉えている。</p> <p>C：進んで歴史的仮名遣いについて理解し、学習課題に沿って説話のおもしろさを読み取ろうとしている。</p>	〈成〉 〈リ〉 〈単〉 〈小〉
	【古】 動詞の活用 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 動詞の活用の仕組み ◆ 変格活用 	○			<p>A：文語文法の体系の中で、動詞の性質について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動詞の活用形、活用の種類について理解している。 ・文中の変格活用の活用の種類・活用形を答えることができる。 	
	【漢】 訓読の基本 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 訓読の基本(送り仮名、返り点、書き下し文) 	○			<p>A：中国古文を訓読法によって和文脈に置き換えることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返り点の示す語順を理解している。 ・置き字の性質について理解している。 ・主な助詞・助動詞に注意しながら書き下し文に直すことができる。 	

<p>【漢】 故事成語 「矛盾」 「助長」 (3時間)</p>	<p>◆ 短い漢文の読解</p>	○	○	○	<p>A：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢文訓読の基本を理解している。書き下し文に直すことができる。 ・打消の用法「莫」「弗」「不」や再読文字の性質について理解している。 <p>B：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の内容や構成を正確に理解することができる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <p>C：故事成語の成り立ちについて積極的に学習を進めようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書で扱った以外の故事成語とその成り立ちについて積極的に考察を進めようとしている。 	
<p>一学期 中間 考査</p>		○	○	○		
<p>問題演習 (1時間)</p>	<p>・模擬試験を意識して、問題や解法を演習する。</p>				<p>進研模試の過去問をもとにして演習・解説し、問題傾向、問題構成、考え方の手順などを解説する。</p>	
<p>【古】 『徒然草』 「丹波に出雲といふ所あり」 (3時間)</p>	<p>◆ 随筆の読解</p>	○	○	○	<p>A：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の主要な古文単語の意味を把握している。 ・『徒然草』の文学史的・思想的な背景について理解している。 <p>B：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて古典文法等の知識を基に的確に捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「上人の感涙いたづらになりけり」と筆者が結んでいる理由について正しく理解できている。 ・評論文に表れているものの見方、考え方を捉 	<p>〈成〉〈り〉〈考〉 〈単〉〈小〉</p>

					え内容を理解している。 C：『徒然草』や兼好法師について積極的に内容や歴史的価値について調べ、理解を深めようとしている。		
	【古】 動詞・形容詞・形容動詞 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 動詞の正格活用 ◆ 形容詞の活用 ◆ 形容動詞の活用 	○		<p>A：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動詞の正格活用を理解し、全ての動詞の活用の種類と活用形を識別することができる。 ・形容詞、形容動詞の活用と活用の種類について理解することができる。 ・用言の音便について理解することができる。 		
	【漢】 寓話 「借虎威」 使役・受身 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 寓話の読解 ◆ 使役形・受身形の理解 	○	○	○	<p>A：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の漢文語彙の意味を把握している。使役形・受身形の句法を理解し、書き下し文に直したり現代語訳を作ったりすることができる。 <p>B：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて古典文法等の知識を基に的確に捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虎が「以為畏狐也」と考えるに至った経緯を正確に理解している。 <p>C「蛇足」「隗より始めよ」「漁夫の利」など『戦国策』を出典とする故事成語について調べ、理解を深めようとしている。</p>	
	一学期 期末考 査		○	○		主に『徒然草』・「借虎威」から出題。	
2 学 期	【古】 『伊勢物語』 「東下り」 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 歌物語の読解 ◆ 和歌の修辞(序詞・掛詞・縁語・折句)の理解 	○	○	○	<p>A：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の古文単語の意味を把握している。 ・和歌の修辞(序詞・掛詞・縁語・折句)について理解し、それらが用いられている箇所を指摘することができる。 <p>B：章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて古典文法等の知識に基づいて的確に捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、 	〈成〉〈リ〉〈単〉 〈小〉

					<p>考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>・和歌に着目しながら、男たちの心情の変化を理解する。</p> <p>C：『伊勢物語』や物語文学の流れについて調べ、文学史的理解を深めようとしている。</p>
助動詞① (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 助動詞①(き・けり・つ・ぬ・たり・り・る・らる・す・さす・しむ・ず)の意味・活用 	○			<p>A：言葉に一定の法則があり、古典文法の体系の中で、助動詞の働きについて理解している。</p> <p>・助動詞①の活用・文法的意味の使い分け・接続について理解している。</p>
【漢】 絶句と律詩 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 漢詩の解釈 ◆ 漢詩の形式ときまり 	○	○	○	<p>A：近体詩独特の形式、韻律について理解している。</p> <p>・近体詩の形式、押韻の法則を把握している。</p> <p>・漢詩の作者や唐代の詩人について理解している。</p> <p>・漢詩に用いられた語句について理解している。</p> <p>B：漢詩に表現された場面や作者の心情などを正確に理解することができる。</p> <p>・漢詩の展開や表現方法について理解している。</p> <p>・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>C：進んで漢詩の形式ときまりを理解し、学習課題に沿って、漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、優れた表現に親しもうとしている。</p>
二学期 中間考 査		○	○	○	
問題演 習 (1時 間)	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験を意識して、問題や解法を演習する。 				<p>進研模試の過去問をもとにして演習・解説し、問題傾向、問題構成、考え方の手順などを解説する。</p>

<p>【古】 「土佐日記」 『馬のはなむけ』 『帰京』 (4時間)</p>	<p>◆ 日記物語の読解</p>	○	○	○	<p>A：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の古文単語の意味を把握している。 ・作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 <p>B：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて古典文法等の知識に基づいて的確に捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臚化表現や冒頭と末尾の照応など、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・仮名による日記文学が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <p>C：進んで本文の表現の特色を理解し、学習課題に沿って、作品に込められた意図を考えようとしている。</p>	<p>〈成〉〈り〉〈単〉 〈小〉</p>
<p>助動詞② (3時間)</p>	<p>◆ 助動詞②(べし・む・むず・じ・まじ・らむ・けむ・らし・まし・めり)の意味・活用</p>			○	<p>A：言葉に一定の法則があり、古典文法の体系の中で、助動詞の働きについて理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助動詞②の活用・文法的意味の使い分け・接続について理解している。 	
<p>【漢】 史話 『晏子之御』 (3時間)</p>	<p>◆ 史話の読解</p>	○	○	○	<p>A：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の漢文語彙の意味を把握している。正確に書き下し文や現代語訳を作成することができる。 ・『史記』の成立背景や著者・紀伝体について理解している。 <p>B：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて漢文句法等の知識を基に的確に捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晏子の妻の見方、考え方を正しく捉えている。 ・晏子の御者が大夫になった理由を理解している。 <p>C：『史記』や司馬遷について積極的に調べることによって理解を深めようとしている。</p>	

	二学期 期末考 査					主に『馬のはなむけ』『帰京』『晏子之御』について出題。	
	問題演 習 (1時 間)	・模擬試験を意識し て、問題や解法を演 習する。				進研模試の過去問をもとにして演習・解説し、 問題傾向、問題構成、考え方の手順などを解説 する。	
3 学 期	【古】 『伊勢 物語』 「東下 り」 (3時 間)	◆ 歌物語の読解 ◆ 和歌の修辞(序 詞・掛詞・縁語・ 折句)の理解	○	○	○	A：言葉には、文化の継承、発展、創造を支え る働きがあることを理解している。 ・本文中の古文単語の意味を把握している。 ・和歌の修辞(序詞・掛詞・縁語・折句)につ いて理解し、それらが用いられている箇所を指 摘することができる。 B：章の種類を踏まえて、内容や構成、展開な どについて古典文法等の知識に基づいて的確 に捉えている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ 方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・和歌に着目しながら、男たちの心情の変化を 理解する。 C：『伊勢物語』や物語文学の流れについて調 べ、文学史的理解を深めようとしている。	〈成〉〈リ〉〈単〉 〈小〉
	助動詞 ① (3時 間)	◆ 助動詞①(き・ けり・つ・ぬ・ たり・り・る・ らる・す・さす・ しむ・ず)の意 味・活用	○			A：言葉に一定の法則があり、古典文法の体系 の中で、助動詞の働きについて理解してい る。 ・助動詞①の活用・文法的意味の使い分け・接 続につい て理解している。	
	【漢】 絶句と 律詩 (4時 間)	◆ 漢詩の解釈 ◆ 漢詩の形式と きまり	○	○	○	A：近体詩独特の形式、韻律について理解して いる。 ・近体詩の形式、押韻の法則を把握している。 ・漢詩の作者や唐代の詩人について理解してい る。 ・漢詩に用いられた語句について理解してい る。	

					<p>B：漢詩に表現された場面や作者の心情などを正確に理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の展開や表現方法について理解している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <p>C：進んで漢詩の形式ときまりを理解し、学習課題に沿って、漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、優れた表現に親しもうとしている。</p>	
学年末 考査		○	○			